

年頭のごあいさつ 飛躍の年に向かって

市民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

皆さんにおかれましては、お健やかに佳き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから市政に対する温かいご支援とご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、国際的には世界情勢が大きく変化した年であったと思います。英国での国民投票、米国での大統領選など、周囲の予想を大きく覆される状況が生まれ、米国の「アメリカ・ファースト（米国第一）」のように自国を第一に考える傾向が増え、世界各国が内向き志向になりつつあると感じています。

一方、東京都でも「都民ファースト」を主張し、国内でも同じような傾向が見えてきています。

しかし、この点に関しては、私も一昨年の市長選挙の際に「行政判断の基本は三笠の市益、市民益にある」と皆さんにお約束して、市長に就任させていただきました。何事においても「三笠市を第一」に「三笠市民を第一」に考え、三笠市の発展に向けて全力を挙げて取り組んでまいります。

さて、昨年もまちづくりの芽が着実に育った一年でありました。三笠メロンを中心に食と地域を豊かにするイオンのフードアルチザン活動により、東京、名古屋、大阪からのツアーが三笠を訪れたほか、タイのツアーも訪れ、三笠メロンの収穫体験やジオツアーを楽しんでいただき、農業と三笠ジオパークが連動した新たな観光づくりが実現しました。その三笠ジオパークも着実に認知度が増し、昨年の1.4倍となる約4,000人がジオパークを訪れ、交流人口の増加に繋がっています。石炭の地下ガス化についても国の試掘権の許可を受けフィールド実験が始まり、ガス化に向けて着々と進んでいるところです。

そして、市立化から5年目を迎える三笠高校は常に生徒が躍進しており、どの大会に出場しても優秀な成績を収め、今では北海道を代表する高校になりました。また対外的な活動だけではなく「まごころきっちん」やイオン三笠店でのパンと製菓の販売を実施するなど、地域や市民との交流を深める活動も一層力を入れているところです。その高校生がさらに研鑽を積むための教育研修施設として建設を計画しています「高校生レストラン」の平成30年オープンを目指し、今年は着工に向けて準備を進めていきたいと考えています。

しかし、明るい話題ばかりではなく、「市立病院のあり方」という大きな課題も残っています。昨年の市政懇談会ではたくさんのご意見をいただきましたので、これらについてしっかりと対処し、皆さんに「信頼される市立病院づくり」に努め「安心できる地域医療」を構築するため、全力で取り組んでいきたいと考えています。

今年三笠市が市制を施行して60年となる節目の年です。そして干支は「酉（とり）」ですので、これまで先人が築き上げていただいたこのまちの歴史に感謝し、これからの新しいまちづくりに向かって、大きく羽ばたく飛躍の年にできるよう精一杯頑張りますので、これからも市民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が三笠市にとりましても市民の皆さんにとりましても、輝かしい一年となりますことを祈念し、新年のご挨拶といたします。

（広報みかさ平成29年1月号に掲載したものです。）